

「七夕空襲」から66年 千葉でつどい

身ぶり手ぶりも交えて経験を語る中村敏夫さん

千葉県文化センターで



第二次世界大戦中の1945年、千葉市で約1200人が死傷したとされる「七夕空襲」から66年の7日、同市文化センターで「7・7千葉市空襲66周年 戦争を繰り返さないための集い2011」があった。5人の高齢者が登壇し、集まった約100人に身ぶり手ぶりを交え、予定の時間が過ぎても熱心に体験を語った。

【味澤由妃】

市民グループ「千葉市空襲と戦争を語る会」と「ちば・戦争体験を伝える会」が主催。講演した鶴本富士子さん(88)は当時、教師で小学5年生の担任。土手に座って国語の勉強をしていた時、爆撃機が襲来。「飛行士が

私たちがから見えるくらい低空飛行だった。木の陰に隠れなさい」と言ったが、動く子供たちを狙って機関銃を撃ってきた。子供たちは無事だったが、帰りは弾痕があちこちにあって、道を見て「よく撃たれず帰ってこれた」と胸をなで下ろしたという。

中村敏夫さん(81)は当時通っていた航空工業学校での生活や空襲当日の記憶などを身ぶり手ぶりを交えて話した。「戦争は始まったからストップできない。だからこそ手遅れにならないようにしたい」と訴えた。

「千葉市空襲と戦争を語る会」はこれまで、1200人の戦争体験を集めた記録集を製作した。千葉市空襲の犠牲者数は明確ではなく、860人とも1100人にも上るとも言われる。千葉市は「約290人の死没者の氏名、遺族名および住所が記載されている」としているが、プライバシーを理由に名簿を公表していない。

そこで同会と「ちば戦争体験を伝える会」(市川まり子代表)は空襲犠牲者の名簿作成運動を開始。7日までに6000人の名前を

両会が市に陳情書を提出し、名簿作成への協力を求めている。集いでは高知市や仙台市など市民運動が行政を巻き込み、名簿作成にあたっては事例も紹介した。

「戦争体験伝えたい」



千葉空襲の体験を話す中村敏夫氏(正面中央)は7日、千葉市

千葉市の市民団体「千葉市空襲と戦争を語る会」(白井進代表)と「ちば戦争体験を伝える会」(市川まり子代表)は7日、市内で「千葉市空襲66周年戦争を繰り返さないための集い」を開き、約100人が参加した。

千葉空襲は、太平洋戦争末期の1945年6月10日と7月7日の2回にわたる米軍機による爆弾と焼夷弾の投下による。中村敏夫氏(81)などは、焼け野原となり、市民が千葉空襲と東京空襲の約900人が犠牲になりました。

主催者あいさつで白井氏は「千葉市が空襲に遭ったことを知らない人もいます。あの悲惨な戦争を後世に伝えていく必要がある」と述べ、市川氏は「戦争を二度と繰り返させない。戦争を阻止するため一緒に考えたい」と強調しました。

「青い空は「故郷」を参加者といっしょに合唱しました。再び繰り返さないために」が上演されました。

集いでは、語る会が千葉空襲犠牲者の名簿作成と追悼の碑の建立をめざす取り組みを紹介。千葉合唱団が「青い空は「故郷」を参加者といっしょに合唱しました。

広く反響があったことから今回の集いを計画した。白井進代表(81)は「(現代は)戦前の日本によく似た雰囲気を感じる。戦争を忘れてはいけない、伝えなければいけないと強く感じる」と話した。

日時：2011年7月7日(木)
午後2時-4時30分、
会場：千葉市文化センター9階会議室
(中央公園前ツインビル右)
参加費：無料(資料代300円程度)
<内容>
紙芝居
体験談(千葉・東京の空襲被災者)
千葉市空襲犠牲者名簿作成と記念碑建立について
平和の歌を歌おう